

孫が南スーダンに行く...

隊員家族の悩み切実

戦争法

「孫がそのうち南スーダンに行くことになっている。部隊からはかん口令が出ているように、自分が聞いても話をそろそろ聞かせてしまおう。北海道在住、自衛官の孫をもつ80歳の女性は話します。(吉本博美)

戦争法＝安保法制の施行日(3月29日)が直前に迫った26日、「自衛官の人権弁護団・北海道」と「日本労働弁護団(東京)」が行った相談ホットライン「自衛隊員・家族のための安保法施行・緊急電話相談会」には、自衛隊員の身内から複数件の相談が寄せられました。緊急相談会は今回で3回目。日本の自衛隊が米軍と海外で武力行使をする戦争法の実態が明らかになるにつれて、自衛隊員家族の不安が高まっています。

自衛隊辞めて
息子への思い
陸上自衛官の20代の息

戦争法に反対する署名をした東京都在住の男性は、「娘の夫(自衛官)は、集団的自衛権の関係で新たに何か宣誓を求められているらしい。定年

弁護士団体が電話相談会

まで自衛隊にいたるために拒否できないとのこと。上司からはこのホットラインに相談するなどの指示が出ていて圧力は強いようだ」と述べました。「娘の夫は『自分は自衛隊で定年まで働かなければならない』とい

う」。現在、労働者の約3人に1人が非正規雇用のなか、国家公務員としての待遇を受ける自衛官を志願する若者も少なくありません。

これからも声
拾い上げたい
日本労働弁護団の高木太郎弁護士の話 安保法の施行直前だったために、相談された方は切迫した様子でした。何らかの形で声を拾い上げる活動を行っていききたい。

自衛隊の現場を支える実働部隊「一般曹候補生」「下級階級の「士」でいる間は、衣食住完備で家賃・医療費も無料。給料は全額貯蓄に回せるといいます。

人員不足で
徴兵制も懸念

娘の夫が陸上自衛官という女性は「娘が危険任務に就くへの不安な仕事を辞めてほしい」と伝えるも、彼は「生活がかかっているから今の職を

4/10
正旗

れるのではないかと心配。今後、人員不足が顕著になるのは明らか」と指摘した上で、徴兵制に結びつく懸念を示しました。